



いかにずちの子

カトリック町田教会  
町田市 中町 3-2-1  
電話 042-722-4504  
FAX 042-722-4512



<http://www.machida-catholic.jp/>



まことに、一人のみどりごが  
私たちのために生まれた。  
(イザヤ9.5-6)

### 自由な応答

主任司祭 アンジの聖フランシスコ 田中 隆弘

神学生時代、教会法の授業  
だったと思いますが、信者同  
志が結婚する場合は結婚式は  
花嫁が所属する主任司祭がそ  
の結婚式を司式するという規  
定がある、と教えられました。  
そして、もし花婿の教会でそ  
この司祭が司式する場合は花  
嫁側の主任司祭の許可が必要  
になる、とのことでした。

この規定にはいろいろ理由  
がある訳ですが、その一つと  
して先生が教えてくれた説  
明をいまでも覚えています。  
『昔、結婚というものがあり  
決まっていたということがあり  
そのためにその結婚が本当に  
花嫁が望んだものであるかを  
知るためであった』というこ  
とだそうです。つまり『花嫁  
が育った教会の司祭なら、本  
当に花嫁が自由に望んだもの  
であるかが、その顔を覗けば  
わかる』というわけです。  
結婚、愛というものは当人  
たちの自由な中での応答であ

るべきだ、またそのような  
のが真の愛であるという想  
いを教会はもっているとい  
うことでしようか。そして、  
それは何も結婚だけにとど  
まるものではありません。

『私にまずかかない人は幸  
いである』と語っています  
(マタイ11:26)。イエスの  
答えは質問者から信じるこ  
とを取りさることはしません。  
つまり、信仰はいつも人間  
自身が自由に行う応答でな  
らなければならないからで  
す。それは決して手本とし  
て語られた言葉の後から機  
械的に繰り返すことではな  
いからです。すなわち、信  
仰もまた神からの語りかけ  
、招きに対する人間の全人  
格的な自由の応答です。

### 典礼上の中期課題について II その後

運営委員会典礼委員長 遠田 治正

今年から典礼委員長を担  
当しています。実は4年前  
にも担当していて、その時  
に教会の典礼上の中期課  
題として「雷の子」328  
号に書かせて頂きました。

課題として取り上げたの  
は次の3つです。

- ①典礼の奉仕者の裾野の拡大
- ②集会祭儀の司式者育成
- ③ミサ前後の聖堂内の静粛

退任後も、後任の吉田前  
委員長の協力を得ながらこ  
れらの課題解決に取り組ん  
できました。その後の報告  
をしたと思います。

この3年間は、コロナ感  
染拡大でミサ中止などがあ  
ったために、取組みは思う  
ようには進みませんでした。  
しかし典礼の各係の担当  
の方の努力により、少し  
ずつ成果が現れています。

まず①については、朗  
読者がある範囲の人に固  
定化する傾向があったのが  
、担当の方の努力によつて  
次第に幅が広がりました。  
また、聖歌奉仕グループ  
でも、新メンバーが加  
わり、また練習日  
も従来の平日だけでなく、  
日曜日の新生に向かっ  
ています。

②については、4年前  
から祭壇奉仕者の増員に  
務めてきました。祭壇奉  
仕者の役割は以前は聖  
体拝領の手伝いだけで  
したが、先唱と侍者も  
務めるように改善を図  
った結果、奉仕者はミ  
サ全体を見渡せるよ  
うになり、集会祭儀  
の司式者としての基礎  
が養われてきました。  
今後は教区から司  
式者としての認定を  
受けられるように、  
田中神父様のご指導  
を仰ぎながら準備を  
進めていこうと思  
っています。

③については、田中  
神父様の着任後、第  
二ミサ開始前の30分  
間、グレゴリオ聖歌  
の演奏を始めました  
が、その効果があつ  
て私語はかなり改善  
されてきました。聖  
堂はお祈りする場  
であつて、おしゃべ  
りの場ではありません  
ので、特にミサ前  
の私語は控えま  
しょう。

課題解決までには  
まだ時間がかかります  
が、今後とも地道  
に取り組んでいき  
たいと思います。  
町田教会は信者  
が多く集まる活  
発な教会です。  
この状態が継続  
していくため  
には、幅広い年  
齢層の人が典  
礼奉仕活動に  
参加できるように、  
典礼委員会は  
裾野を広げてい  
くよ

うに努めなければなりません。典礼の奉仕は、特別に選ばれた人や信者歴の長い人が行うものではありません。また自分は若いからといって遠慮する必要ありません。ですから皆さんも、聖書朗読や聖歌歌唱などで協力できることがあれば、遠慮せずにご参加ください。

### 神山復生病院を訪ねて

黒川 愛子

10月10日火曜日の秋晴れの日初めて町田教会のバスツアーに参加させて頂きました。行き先は、富士山の麓にある神山復生病院の敷地内にある記念館。明治19年(1886年)にパリ外国宣教会の

ジェルマン・レジェ・テストウイド神父様が、社会で放置されたハンセン病患者救済のために御殿場に家屋を借りて6名の患者さんを収容したことから始まる様々な史実や、ハンセン病患者の方々のために人生を捧げた方々の歴史が展示してある記念館です。

私が最も印象に残っていることは2つあります。1つ目は、当時の様子がわかるDVD鑑賞です。こちらを訪れる前までは、ハンセン病への知識はほとんど皆無で、「かわいそう」というイメージしかありませんでした。しか

し、それは間違っていたことに気づかされました。ハンセン病患者の方々は、世間から隔離された世界で社会からの偏見や差別、病気による心身の衰えなど想像を絶する辛いご経験をされていたのは事実です。しかし、それだけではなかったことを当時の映像を拝見して知ることができました。日々の暮らしの中で、神父様やシスター、医師の方々や看護師さん、そして患者さん同士との触れ合いから生まれる、お互いを笑顔で労り合うお姿を拝見し、患者さんである前に一人の人として生きていらっしやうたことを知りました。

一人の人間として喜怒哀楽を味わい生きていらしたことは当たり前のことではありませんが、映像を拝見するまでは想像がつかず、ハンセン病イコールかわいそうという偏見を私が見持っていたことにも気づかされました。

2つ目は、聖堂で拝見したシスターの生き生きとしたお姿です。年下の私が申し上げますが、シスターはユーモアに富まれ、とてもチャームングで目がキラキラ輝いていらっしやいました。シスターからプラスのエネルギーを沢山頂いたように思います。

### '23年「世界宣教の日」教皇メッセジ

## 燃える心、踏み出す足



すべての民族に福音を伝えるようにと復活した主が教会に与えた使命!



エマオの弟子たちの物語(ルカ24:13-35)から

弟子たちはみことばと裂かれたパンにおられるキリストとの出会いでエルサレムへ引き返し復活を告げる(ルカ24:33)



イエスの死で悲しむ弟子に近づき、ともに歩むイエス。

エマオの二人の弟子がほかの弟子に伝えたように(ルカ24:35) わたしたちも主の受難と死と復活、その愛がわたしたちの人生にもたらしたすばらしい出来事を喜びあふれて話せるように!

イエスはエマオへの道で聖書全体を説明された(ルカ24:27-32)

聖書についての無知はキリストについての無知である(イザヤ書注解除文 聖ヒロニモ)

復活したキリストはパンを裂くかた

パンを裂かれると目が開け、イエスと分かった瞬間に

わたしたちのために裂かれたパンでもある

「その姿が見えなくなった」(ルカ24:31)

道である聖マリア、キリストの宣教する弟子たちの母、宣教者の元后、わたしたちのために祈ってください。



最後になりましたが、今回のバスツアーを企画、運営してくださいました生涯養成委員会の皆さま、貴重な学びの機会をくださりありがとうございます。そして御殿場への往路、バスでお隣に座らせて頂いたベンジャミンさん、私の止まらない質問に美しい日本語で丁寧にお答えくださり、ありがとうございます。



### マレーシアのクリスマス

ヨウ チョウイエン  
楊 秋燕

マレーシアのクリスマスシーズンの過ごし方を紹介します。コロナ禍になる前は、待降節の期間中に、教会の聖歌隊がカトリック信徒の各家庭を訪問して聖歌を歌って、一緒にお祝いするイベントが行われていました。  
ミサは、マレー語、中国語、英語で、3回行われています。



クリスマスシーズンは、教会側が準備した広い会場に、信徒の皆さんが言語関係なく集まって、みんなで祈りしてお祝いをしていました。日曜学校に集まった友達とプレゼント交換などを行ったことは、とても楽しい思い出です。このようなイベントを行うことで、主の降誕に向けて、心の準備を進めていきます。  
マレーシアは、多民族国家で、多宗教の国です。しかし、マレーシアには、昔から、宗教に関係なく友達と一緒にホームパーティーを行う習慣があります。  
マレーシアでは、クリスマスシーズンに食べる特別な料理というものはなく、日本のように「フライドチキン」を食べる習慣もなく、各家庭で得意な料理を作ります。信徒の皆さんと一緒にパーティー

をして楽しく過ごします。クリスマス・イブには、夜から日付が変わるまで、家族みんなで一緒に楽しい時間を過ごします。マレーシアにいる妹に確認したところ、今年はコロナの制限が解除になったが、元の状態には戻っていないようです。

私が出発の頃のクリスマス・イブの思い出は、早く寝て、2段ベッドに靴下をかけて楽しみに待っていました。サンタさんは来てくれませんでした。それが当たり前で代わりました。その代わり、父からももらったクリスマスプレゼントの中で最高のプレゼント

## 新ワンポイント聖書

恐れるな・根本メッセージ

聖書に「恐れるな」が三六五回出るといふ古い伝承があるようです。実際、聖書には「愛」より「恐/畏」の熟語が圧倒的に多く、「愛しなさい」二八回に対し、「恐れるな」は四七回も出ます。聖書の中心メッセージは「愛」としても、語の頻度からは意外な結果で、著名な聖書学者も、神から人への最大メッセージは「恐れるな」であると言います。

「恐れるな」の理由は種々あるでしょう。確かなことは「既に救われた」のなら恐れる必要はないということです。「あなたがたには世で苦難がある。しかし、勇気を出しなさい。私は既に世に勝っている。」(ヨ



(4)

東京カトリック神学院講師 浦野 洋司

ハ一六・三三。我らの救いが主の贖いで実現した力強い宣言です。

神の計画は「総ての人」の救い、その中の一人が自分であることに間違いないのです。晴佐久神父様の言に「救いとは自分が既に救われていることを知ること」とあり、仏教哲学者、ひろさちや氏も真の祈りとは「お救い下さい」(請求書)でなく、既に「救われた事実」に感謝する「領収証」の祈りと申します。肝に命じましょう。「恐れるな」、聖書の根本メッセージです。

好評の「新ワンポイント聖書」は、筆者のご都合により今回をもって終了となります。次号からは装いも新たに佐藤正明さんによる聖書エッセイをお届けします。

は、私を日本に留学させてくれたことです。私が、日本に来てからは、毎年必ずクリスマスカードを父母に送るようになっていきます。父母はとっても喜んでくれています。

### サンティヤゴ巡礼記②

白柳 弘幸

#### 巡礼ということ

あるサンティヤゴ巡礼の本に故岡田大司教様が「人生は巡礼です。歩きながら祈り、祈りながら歩く……巡礼は心と体の健康のため、信仰を深めるために最高です」と一文を寄せていました。巡礼に慣れると朝は夜明けとともに、いや夜明けよりも早くから歩き出すこともありました。

妻とのふたり旅でしたが、常に他の誰かが一緒にいて、守られているような不思議な感覚もありました。ですから、暗い山道でも恐ろしいとか怖いということを感じたことはありませんでした。

四国巡礼では同行二人と

いつて自分とお大師様(弘法大師)が常に一緒に歩いていると言われています。もしか他の誰かというのは聖ヤコブか、イエズス様であったのかもしれません。一人で歩けばもつとそのような気持ちも湧いたかもしれません。

聖体訪問での祈りは、まず巡礼の祈りを唱え、世界平和のこと、祖父母、父母、弟、叔父叔母らのことを思い浮かべて祈りました。足かけ六年になりましたので、回を重ねるごとに祈りを捧げる方々が増えて行くのは何とも悲しいことでした。祈るだけでなく、これまでの自分の人生の歩みについても考え、これからどう歩むかなど、多くのことを考える時間になりました。

#### 巡礼路の教会

巡礼路を歩く日々の楽しみの一つは巡礼路にある教会の聖体訪問でした。ブルゴスやレオンの街には壮大なゴシック建築の大聖堂が建てられています。大聖堂内で見上げる



ステンドグラスの美しさは日本国内では見られない大掛かりな装飾で圧倒されました。小さな街ながらも大きな教会がいくつも建てられている所もありました。自分たちの教会をつくるという熱意の表

れであったのでしよう。

中には二、三十人も入れば満席になる御聖堂もありました。小さな祭壇、素朴なキリスト磔刑像やマリア様の御像が置かれていることもあり、温かみを感じられるものでした。聖体訪問で御聖堂に入るとは毎日の楽しみで飽きることはありません。ただ小さな街の教会の扉は防犯のため閉じられていることが多かったのが残念でした。

ほの暗い御聖堂の中に入ると土地の方が一人二人と、微動もせず祈っている姿もよく見ました。神々しささえ感じる美しい光景でした。

★写真はキリスト磔刑像(トリステル・リオの聖墳墓教会)

**年末年始のミサ予定**

待降節第4主日 12月23日(土)18:30  
24日(日) 7:30/10:30

主の降誕(夜半のミサ) 24日(日)17:00/19:00/22:00  
(日中のミサ) 25日(月)11:00

12月30日(土)18:30  
31日(日) 7:30/10:30

神の母聖マリア2024年 ミサ1月1日(月)11:00

### 大倉一美神父 ダイヤモンド祝ミサ



10月29日司祭叙階60周年記念ミサが行われた。写真は「ジョニー」の愛称で親しまれた大倉神父と往時のリーダーたち。

### 待降節英語の黙想会

11月19日



山手教会タリル・ティニヨ神父を指導司祭としてお迎えし、他教会からの参加者を含め55人が参加した。

## 信者動静

2023年10月～11月

(個人情報のため、削除しています)